

## 国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会報告

会員・研究部会構成員 田口卓臣

2013年2月3日、東京ウィメンズプラザで、福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト(FnnnP)及び支援プロジェクト(FSP、宇都宮大学内)の活動を振り返る報告会「東日本大震災・原発事故発生からもうすぐ2年、私たちは何をすべきか?」が開催され、本研究部会も協力した。第一部では、宇都宮・群馬・茨城大学が、3.11後の福島県内外の世帯を中心に実施した6つのアンケート調査結果報告があり、第二部では、FnnnPの活動を振り返った報告があった。高濃度の放射能汚染に見舞われた福島県や栃木県北部等において、避難したか残留したかに拘らず、当事者を取り巻く状況の深刻化が浮き彫りになった。家族の離散、失職者の増加、仮設住宅での生活の質の低さ、福島以外の高線量地域に関する情報不足、汚染地と避難先を行き来する二重生活による経済的・精神的負担の過重など、未解決の問題は山積みである。第三部では、福島県子育て支援課、同県内子育て支援団体、県外避難当事者を交えた討論会が開かれた。この討論では、避難者と残留者の対立、避難先から戻ってくる当事者の孤立化、汚染物質の置き場が決まらない現状、継続的な当事者支援のための自治体・市民団体の連携の必要性、原発事故子ども・被災者支援法の実効化への障壁など、多くの課題が指摘された。これらの調査や議論を踏まえ、今後FSP・FnnnPが復興庁に要望書を提出し、政策提言を行う予定である。(600字以内)

\*本報告書詳細 <http://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/news/130203fsp.html>

\*アンケート結果 <http://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/fsp/proj4.html>

\*原発事故子ども・被災者支援法 <http://blog.kodomoinochi.net/>